



企画・発行 日本赤十字社中四国ブロック血液センター 学術情報課 Tel 082-241-1619
協力 中四国ブロック内各赤十字血液センター



E型肝炎ウイルスに対する安全対策について

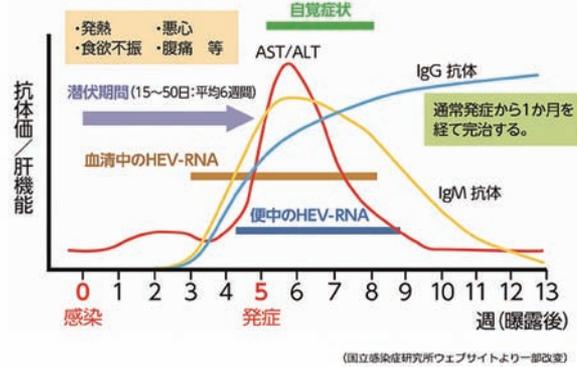
～2020年8月5日より全数検査を開始します～

E型肝炎とは、ヘパウイルス科の1本鎖RNAウイルスである「E型肝炎ウイルス（HEV）」により引き起こされる人獣共通感染症です。潜伏期間は2～9週間（平均6週間）であり、一過性の感染で不顕性感染が多く（特に若年層）、キャリア化することはほとんどありません（図1）。

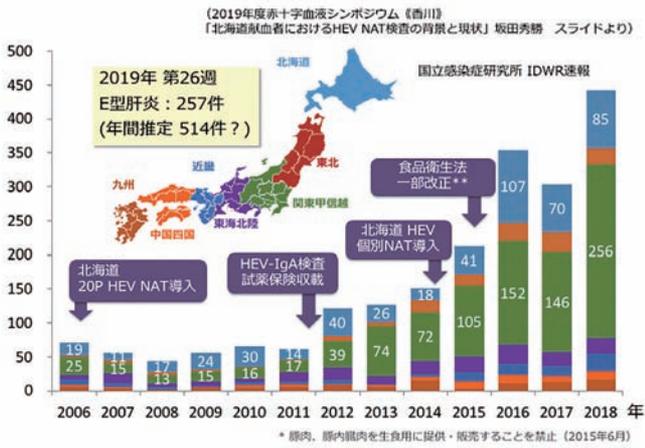
感染経路は主に3つあり、①経口感染：加熱不十分なブタ・イノシシ・シカ等の内臓生肉等の摂取によるもの（日本含めた先進国）②水系感染：糞便中に排泄されたウイルスによる糞口感染（途上国）③輸血感染となります。日本での発生報告件数は東日本が大半を占め、都道府県別では北海道が最多であり、年々増加傾向にあります（図2）。また、ヒトに感染する遺伝子型（Genotype）4つのうち、日本に土着している遺伝子型はG3、G4であり、重症化しやすい後者は北海道に多いです。

以上のことから、日本赤十字社では、2005年より北海道に局限したHEVの核酸増幅検査（NAT）を行い、併せて、献血会場での周知（ブタ・イノシシ・シカの肉や内臓を生又は生焼けて6か月以内に食べた場合の献血辞退のお願い等の掲示）、献血者の問診強化といった安全対策も講じてきました。しかしながら、北海道でのHEV検査陽性率の上昇や、輸血後HEV感染症例が報告されています（図3）。

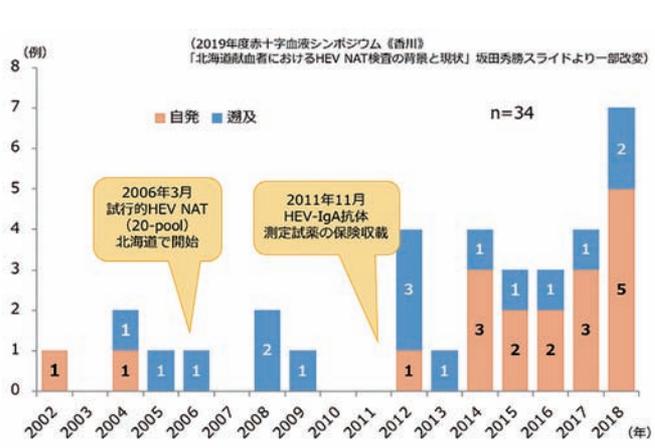
そこで、2020年8月5日より、更なる安全対策のため、HEV検査を全国すべての献血血液に対し実施することとなりました。HEV検査は、TMA法という原理を用いた核酸増幅法によって行います。使用機器は従来のままで、HBV・HCV・HIV検出試薬（MPX試薬）およびHEV検出試薬によってMPX、HEVを同時に判定し、これまで北海道で実施してきた検査と同じ感度・特異性・試験速度での検出が可能です。



（図1）E型肝炎感染からの経過



（図2）E型肝炎届出数



（図3）輸血後HEV感染症例の推移（報告年）

献血血液からHEVが検出された場合、献血者の方へはHEV感染に関する通知文が届き、当該血液を輸血用製剤として使用することはありません。ただし、一般的にHEVは体内から3か月程度で消失するといわれていますので、次の献血まで6か月以上空ければ、再度献血のご協力をいただくことが可能となります。

輸血後HEV感染が疑われた場合は、直ちに赤十字血液センター医薬情報担当者までご連絡ください。血液センターでは製剤の使用上の注意や感染症・副作用のリスク等、安全性に関する情報の提供を行い、患者さんがより一層安全で効果的な輸血を受けられるよう努めてまいります。

（中四国ブロック血液センター 検査二課 中谷涼太）



走れ! いずみ2号!

今春、鳥取県赤十字血液センターに新たな献血バス(移動採血車両)が納車されました。その名も「いずみ2号」(以下、いずみちゃん)です。

今回は、鳥取センターでは2009年12月以来、実に10年振りとなる新たな移動採血車両「いずみちゃん」のご紹介をさせていただきます。

鳥取県内では2台の献血バスを運用しており、それぞれ県内の東・中部圏域と西部圏域をカバーしています。うち1台は特に老朽化が進んでいたため、バスの更新が決まり、職員一同、新たな献血バスの納車を心待ちにしていました。

2020年3月27日、待望の新車両との対面…敷地内に颯爽と登場してきた白亜の「いずみちゃん」は、陽の光を浴びてまばゆく輝いており(思い出補正かもしれませんが)直視することが難しい程だったと記憶しています。



続いて「いずみちゃん」の操作や設備関係の説明を受けることになったのですが、なんとAMT(オートメティッドマニュアルトランスミッション)方式という変速機構であり、若干の癖はありますが、クラッチやシフトレバーはなく、アクセルペダルとブレーキのみで操作を行うという点においては多くの方が運転されているAT(オートマチックトランスミッション)車と同様です。

これはMT(マニュアルトランスミッション)でクラッチ操作に苦慮していた職員にとっては朗報となりました。半クラッチや坂道でのエンストの恐怖から解放される日がやってきたのです。(後になって判明したことです。機構自体はMTなので注意を払わないと坂道等でエンストします。エンストを未然に防ぐためには慣れが必要だそうです。)

その後、ボディにワックスをかけたり、LANを敷設したり、採血装置を設置したりと様々な工程を経て、4月23日から本格的に稼働しています。

「いずみちゃん」が鳥取センターに来たタイミングは新型コロナウイルス感染拡大の真っ最中だったこともあり、献血会場を予定していた事業所様側からのお断りが頻発していましたが、そんなコロナ禍においても献血会場に足を運んでくださり、献血にご協力くださる方が大勢いらしたのは「いずみちゃん」のおかげに他なりません。



「いずみちゃん」は、献血者の皆様の善意と血液センター職員とをつなぎ合わせる接点として、また、県民の皆様に広く献血を知っていただく広告塔として、長い旅のスタートを切りました。

「いずみちゃん」が皆様に愛され、充実した旅を続けられるように、しっかりサポート(主にワックスがけ)していきたいと思えます。

(鳥取県赤十字血液センター 献血推進課 高橋克弥)